

# 庫裏で常例法座を再開

## おとしめの声傾いた本堂に届く

熊本市東区・大光寺

熊本地震で本堂が傾き、倒壊の恐れがある熊「キーキ、キーキ」近く本県東区の大光寺。5月18日に同寺を訪ねた。隣くとほろ。助けられ立接する大光保育園の園児「しよもなな」と教員「安全のため、地震1週間の防壁が本堂と園舎を製造していた。三好誠哉住職(58)

は無理だと思っていたが、坊守(三好田孝)さんが「常例はせんなら、お寺じゃなかた」と後押ししてくれた。6月4日、庫裏で再開される」と語った。

6月4日、再び、同寺を訪ねた。庫裏の仏間には「南無阿弥陀仏」の文字が掛けられていた。三好住職は「通帯は、お木像のそばに、隣の本堂に届く」と語り、お寺で座つてお話を聞かせていただかないといけない」と三好住職(58)が「この地震によって、お寺の守正信さん(81)は、お寺で聞く話も若きもいのちを考えた。そして、あわせてお寺の意味を考えた。お寺は、明日生きているかどうかわからないお互いが阿弥陀如来

三好住職は「お寺は、無常の世の中にあつて、揺るぎのない真実のみ教え、南無阿弥陀仏を聞くために、庫裏の仏間が使えるのだから、父の代から30年以上続けてきたこの法座、続けていこう」と力強く語った。

400年の歴史がある本堂は、7月に解体することが決まった。三好住職は「本堂を失つことは言葉に表せないが、大事に護り伝えることが私たちの使命。規模は今より小さくなるだろうが、本堂をいつか再建したい」と語った。



大きく傾いた大光寺の本堂。境内の右隣にある同寺保育園の園児たちの安全を確保するため金属製の防壁が建てられている

三好住職は「お寺は、無常の世の中にあつて、揺るぎのない真実のみ教え、南無阿弥陀仏を聞くために、庫裏の仏間が使えるのだから、父の代から30年以上続けてきたこの法座、続けていこう」と力強く語った。

三好住職は「お寺は、無常の世の中にあつて、揺るぎのない真実のみ教え、南無阿弥陀仏を聞くために、庫裏の仏間が使えるのだから、父の代から30年以上続けてきたこの法座、続けていこう」と力強く語った。